

【特 集】

共通駐車サービス券の導入について

社団法人 全日本駐車協会

財団法人 駐車場整備推進機構

1. はじめに

車でお買い物に出かけることの多い方なら誰でも、提携駐車場に車を駐車し商店やデパートなどで買物金額に応じた料金割引券を貰ったり入場時に取った駐車券を商店のレジで認証機に通して貰って割引処理を得るなど、何らかの形で駐車料金サービスを受けられた経験があると思います。

このサービスは車利用者への特別サービスで、個々の商店とその近隣に存在する駐車場が提携し一定金額の買い物に対し駐車サービス券を配布し提携駐車場での駐車料金を割安にしたりあるいは無料となるようなサービスです。

利用者が駐車場を探すときは目的地に近くかつサービスを受けられるところを選択するため、特定駐車場に車が集中し周辺道路の混雑が発生したり、駐車場を探しながら走行するうろつき車両も発生しますます交通混雑に拍車がかかっています。

一方、道路交通法の改正に伴い平成18年6月から違法駐車確認事務の民間委託制度がスタートし駐車違反取締りが一段と強化されました。渋滞緩和に多大な効果がある反面、市街地への車乗り入れ減少とともに商店の売り上げ減少となり中心市街地の衰退が懸念される事態となっております。

そこで街ぐるみで来街者に駐車料金を気にせず安心して買い物やリクレーションに長い時を過ごしてもらい街全体に賑わいを取り戻すため、個々の商店による駐車サービスから一步前進させ地域内の商店街を横断的に捕らえた共通駐車券サービスが必要となってきます。

今回、全日本駐車協会では磁気カード方式で、かつ一部メーカーに限定せず使える磁気駐車サービス券を規格化（汎用磁気式サービス券）し全国展開を開始しました。

2. 従来のサービス券が抱える課題

従来は、駐車場管理機器についての国内共通標準規格が存在しないため、管理機器メーカーが異なると機械の仕様もそれぞれ独自のもので、サービス媒体である駐車券やサービス券なども各メーカー独自の規格仕様で製作されるため全く互換性のないことが共通駐車サービス券共通化のネックになっておりました。

核になる商業施設、或いはある街の商店会などが地域の数多くの駐車場をネットワーク化して駐車料金の共通サービスや回数券を発行してお客さまの利便性を高めようとする場合、一帯

の全ての駐車場に「ある一社」のメーカー機器が入っている場合なら、そのメーカー仕様の磁気サービス券を使えばどこでも機械に通せますが、実際には駐車場ごとに価格・デザイン・機能などいろいろの見地から好みのメーカー製品を選んで設置するのが競争原理上も当然のことですから多く



図 - 1 共通駐車券

の場合一つの地域で幾つもの駐車場があれば必ず複数メーカーの機器が存在するのが通例です。

そうなると店舗や商店会側では複数種類のサービス券、或いは何種類もの認証機を用意し、一々お客さまにどこの駐車場に駐車したかを確かめる必要が生じコスト面や運用面で神経を使うことが非常に多くなります。

一方、「ある一社」の規格を標準仕様と決めてしまうと後からサービスネットワークに加わろうとする駐車場、有人管理をやめ機械化を図ろうとする駐車場、老朽化したので機械更新を考えている駐車場等では「ある一社」をを選択せざるを得ない場合では機種・メーカーの選択肢が狭められ、競争原理が働かない環境が生まれてしまうという状況が日本各地で現実に起こっています。

この閉鎖的環境を打破し開かれた市場とすることで駐車場新設工事のポテンシャル向上と設備更新時における機器選択自由度の向上が期待されていました。

3．新しい共通駐車サービス券システムの開発

このような問題を解決する切り札として平成16年夏から（社）全日本駐車協会技術委員会の場で各委員が知恵を出し合い、賛助会員の大手メーカー3社の専門家および（財）駐車場整備推進機構が協力し合って開発したのが、汎用（共通）磁気式サービス券です。

平成17年1月14日に全日本駐車協会理事会にて承認され全日本駐車協会規格のサービス券としてデビューしました。

駐車場経営者なら誰でも早くそうならないかと望んでいる駐車場管理機器のオープン化（異なるメーカーの機器を自由に混在させて使えること）、データ形式やデータ通信上の決まり事を共通仕様化すること（IT専門家風にいうと通信プロトコルの共通化）の第一歩として、協会賛助会員で大手駐車機器メーカーのアマノ(株)・日本信号(株)・三菱プレジジョン(株)の3社が製造販売する料金精算機を対象に、機器供給メーカーが3社のいずれであるかを問わず、また可能な限り機種・年式も問わず複数の駐車場で汎用・共通的に使えるサービス券となるため施設や店舗、来場客、更には駐車場経営者の三者にとって利便性の向上や手間とコストの削減に大いに役立つものです。

磁気による設定次第で、100円券・300円券などサービスする料金額表示の券、あるいは30分券・1時間券などサービス対象となる駐車時間で規定するものなどいろいろあるでしょうが、使い勝手は従来の各メーカー個別のサービス券と同じです。ただ画期的なのは一種類のサービス券で前記3メーカーの精算機にすべて使えるというものです。なお、券面の印刷さえ変えれば回数券にもなり得ます。

但し、この共通サービス券さえ作れば3社製機器に直ぐに使えるというわけではありません。共通サービス券を読み取れるカードリーダー（ハード）と必要ソフトウェアが精算機に入っていることが使用するための必要条件です。各社とも今後販売してゆく新しい機種には顧客の要望があれば、殆ど追加費用なしで汎用（共通）磁気式サービス券が読めるリーダーとソフトウェアを搭載できます。無論共通サービス券の他に従来同様の自社固有サービス券に対応できますので、現在のところは地域や店舗群の主導で複数の駐車場がサービスサークルを作っている環境でなくとも、将来そのような機運が出てきた場合に慌てて追加工事をしなくて済むように、新規投資に際しては始めから共通サービス券対応仕様として置くことをお勧めします。

なお、既設の精算機であってもかなり昔の旧型を除きわずかの費用負担で改造可能です。また本規格は3社に限定するものではなく技術内容を開示しいかなるメーカーにも適用していただけるようになっており、希望するメーカーからの申し入れを期待しております。現在では（株）サニカ、バンテック（株）が加入し合計5社の精算機が対応しております。

4．期待される効果

買物客は地域内のどの駐車場に駐車しても店舗と契約している提携駐車場を利用したのと同様なサービスが受けられるため利便性が向上します。

提携駐車場に入場するため長蛇の待ち行列が発生したり、空車になるまで周辺をうろつき走行することもなく道路渋滞を避けることができます。

周辺の駐車場を利用すると特定商店以外にも足を運ぶことが可能となるため利用者が街中を回遊し、街の賑わいが生まれてきます。

地域内のより多くの駐車場を駐車料金サービスの環に加え得ることで加盟店は実質的に多数の駐車場を確保したことになります。

駐車場事業者は駐車場への呼び込みや近隣商店との個別契約等特別な営業的活動せずに稼働率が高まるチャンスとなります。



図 - 2 ポスター 1

店舗側では顧客の利用駐車場を確認する際、契約駐車場に駐車したという事実を確認するだけで済み、具体的にどの駐車場に駐車したかを確かめ夫々に適用できるサービス券を選んで渡す手間が解消し手渡しの間違いによるトラブルを避けることが可能となります。

駐車場側でも間違ったサービス券（他駐車場でしか使えない券）を持って来たお客さんに正しい券のみ利用可能であるとの説明が省けます。

クーポン券との交換、スタンプ確認等によって認証機へのインプットや自社サービス券との交換作業が不要となり無人化・24時間営業が可能となります。

駐車場事業者にとっては汎用（共通）磁気式サービス券に対応するものであればどのメーカーの製品（自動精算機）でも導入できるので、新規投資あるいは既存設備更新時を問わず、デザイン・機能・コスト面での選択の幅が広がり競争原理を確保できます。

更に従来なら導入したい機種があってもそのメーカーでは既に当該エリアで使われている他メーカー機種用のサービス券に対応できないため、やむなくタイムレジスターを用いて有人管理でサービス券の交換を行って料金サービスの環に加わっていた駐車場事業者にとり、「機械化 無人化 24時間営業」が可能となり管理コスト削減に踏み切る契機となり得ます。

5．今後に向けた活動

このような利点を余すところなく活用して貰うためには、まずはいろいろな駐車サービスを提供する商業施設や町内会・商工会、自治体等に対する徹底したPRが必要となります。民間経営の駐車場のみならず（財）駐車場整備推進機構，地方自治体・公社等が運営する全ての駐車場に対し全国規模での普及・宣伝活動が必要と判断し、平成16年秋より（財）駐車場整備推進機構が主宰する新規格料金精算機械の普及研究会にも参画し緊密な意見交換を行ってきました。

この中で「新・磁気式共通駐車サービス券（JPA全日本駐車協会規格）システムへの統一化をご提案します」としたリーフレットを作成し広く関係者に配布し認知して貰えるようにすると共にパーキングプレス、PARKING等業界誌に継続掲載してきました。

一方、平成17年度の駐車場情報案内システム高度化実証実験では八王子市において15箇所の駐車場すべての精算機25台を汎用磁気式駐車サ

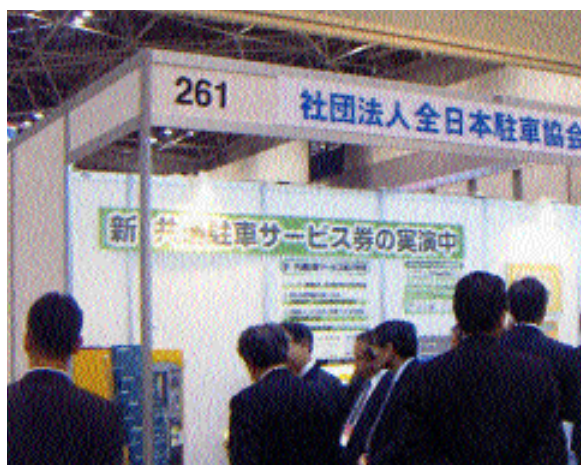


図 - 3 ポスター 2

ービス券仕様に改造し共通駐車サービス券システムの実証実験に着手し、平成18年5月開催の第6回パーキングジャパンにおいて成果発表を行い、同時に大手3社の精算機を設置した実演会では1種類の駐車サービス券でどこのメーカーにおいても共通利用できることを体験して頂きました。

その結果、多くの出席者が強い関心を示されるとともに現地調査依頼等がありご要望のあった地域をはじめ中心市街地活性化等に取り組んでいる地域の行政、商工会議所、商店街等にダイレクトメールを送り、街おこしの一環として共通駐車券システムを紹介しています。

活動を初めて6ヶ月間に多くの地域へ足を運び「新・磁気式共通駐車サービス券」の普及活動を続けてきましたが、さらに「共通駐車券は」PA規格対応型」と関係者に定着するようこの活動を継続して行きたいと考えています。



(社)全日本駐車協会のブース



共通駐車サービス券による利用体験